

<特集「受動表現」>

アフリカーンス語における受動表現 Passive expressions in Afrikaans

山藤 颯
Akira Sando

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は、アフリカーンス語における受動表現に関するデータを、風間(2020)の「受動表現」の英語版調査票を用いて収集し、分析した結果を提示する。

Abstract: This article presents the results of my preliminary research on Afrikaans passive expressions, using Kazama's (2020) questionnaire on passive expressions.

キーワード: アフリカーンス語、ゲルマン語、受動表現

Keywords: Afrikaans, Germanic, Passive

1. はじめに

アフリカーンス語はドイツ語・オランダ語のような西ゲルマン語群に属する言語である。アフリカーンス語の基本的な受動の表現は助動詞 *word* と過去分詞を組み合わせるものとなる。アフリカーンス語は過去形の語彙が数語しか残っていないため、受動の現在・過去・未来で用いる助動詞がそれぞれ異なる。現在形の受動表現であれば助動詞に *word* 「(～に) なる」が、過去形であれば *is / was* (英: *am, are, is / was, were*) が、未来形であれば *sal* (英: *shall*) と *word* が用いられる。また、アフリカーンス語の助動詞・動詞は人称変化しない。過去分詞は、接頭辞に *be-, ver-* をもつ非分離動詞や *-eer* で終わる動詞以外は全て接頭辞 *ge-* をつけるのみである¹。アフリカーンス語はドイツ語やオランダ語と同様の西ゲルマン語群であるため、基本的な語順のルールはそれらの言語と同じと考えてよい。すなわち、主文の平叙文では、助動詞を第2位に置き、それと結びつく本動詞の過去分詞は文末に置かれる。ドイツ語と異なる点は、現在完了形などで文末に置かれる過去分詞のさらに後に前置詞句が移動する枠外配置が頻繁に起こることである。この枠外配置は、アフリカーンス語の他にアフリカーンス語の元となっているオランダ語でも同様に頻繁に起こる現象である。

今回は言語形成期を南アフリカ共和国で過ごし、アフリカーンス語と英語のバイリンガルである20代の男性を対象に面談聞き取り調査を行った。調査の方法としては、風間(2020)の英語の文章を見せたうえでアフリカーンス語に訳してもらった形である。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

¹ *-eer* で終わる動詞は、ドイツ語の *-ieren* で終わる動詞と解釈すればよいが、ドイツ語と異なり、*-eer* で終わる動詞の場合過去分詞で *ge-* の接頭辞が付く場合もある。

例: *Ek het Afrikaans (ge)studeer.* (私はアフリカーンス語を勉強した)

2. 言語データ

(1) A は B に叩かれた。(直接受け身)

- a. *Bob het Andy ge-slaan.*
Bob have.AUX Andy PTCP-hit
(Bob は Andy を叩いた)
- b. *Andy is deur Bob ge-slaan.*
Andy be.AUX by.PREP Bob PTCP-hit
(Andy は Bob によって叩かれた)
- c. ? *Andy is ge-slaan deur Bob.*
Andy be.AUX PTCP-hit by.PREP Bob
(Andy は Bob によって叩かれた)
- d. *Andy is ge-slaan.*
Andy be.AUX PTCP-hit
(Andy は叩かれた)

(1a)が能動文であり、(1b-d)が受動文となる。アフリカーンス語の助動詞はどの人称・数であっても変わらないため、能動文の過去形は *het* 過去分詞で表し、受動文の過去形は *is* 過去分詞となる。(1b)のような受動文が基本的な形となり、*is geslaan* (*slaan* の過去分詞) で過去の受動文を表し、動作主は *deur Bob* のように *deur* を用いた前置詞句で表す。動作主の位置に関しては、(1b)のように過去分詞の前に置く形では許容されるが、(1c)のように過去分詞の直後に置く形では不自然であるとのことである。また、アフリカーンス語の受動文では(1d)のように動作主を省略することも可能である。アフリカーンス語母語話者によると、(1d)のような動作主を省略した形のほうがより自然であるとの回答を得た。

(2) A は B に足を踏まれた。(持ち主の受け身、身体部位)

- a. *Bob het op Andy se voet ge-stap.*
Bob have.AUX on.PREP Andy POSS foot PTCP-step
(Bob は Andy の足を踏んだ)
- b. *Andy se voet is op ge-stap deur Bob.*
Andy POSS foot be.AUX on.PREP PTCP-step by.PREP Bob
(Andy の足は Bob によって踏まれた)
- c. *Andy se voet is op ge-stap.*
Andy POSS foot be.AUX on.PREP PTCP-step
(Andy の足は踏まれた)
- d. *Daar is op Andy se voet ge-stap.*
there be.AUX on.PREP Andy POSS foot PTCP-step
(Andy の足は踏まれた)

(2a)が能動文であり、受動文が(2b-d)となる。(2b-d)では、主語が *Andy* ではなく *Andy se voet* 「Andy の足」となり、受動文となる。(1b)では動作主が過去分詞の前に置かれるほうが自然であったが、(2b)の場合は動作主が過去分詞の直後に置かれる形のほうが自然であると回答を得た。また、(1c)と同様に、動作主である *deur Bob* を省略する(2c-d)の表現も可能である。(2b-c)は基本的な受動文であり、行為者が想定

される場合に用いられる。一方、(2d)で用いられているものは、*daar is* 過去分詞（現在形であれば *daar word* 過去分詞）で受動文を表す。(2d)のような *daar* 受動文は基本的な受動文である *word* 過去分詞のものとは異なる使い方がされ、主に動作主が不明な場合に用いられる。

(3)A は B に財布を盗まれた。(持ち主の受け身、持ち物)

- a. *Bob het Andy se beursie ge-steel.*
 Bob have.AUX Andy POSS wallet PTCP-steal
 (Bob は Andy の財布を盗んだ)
- b. *Andy se beursie is deur Bob ge-steel.*
 Andy POSS wallet be.AUX by.PREP Bob PTCP-steal
 (Andy の財布は Bob によって盗まれた)
- c. *Andy se beursie is ge-steel.*
 Andy POSS wallet be.AUX PTCP-steal
 (Andy の財布は盗まれた)
- d. **Daar is Andy se beursie ge-steel.*
 there be.AUX Andy POSS wallet PTCP-steal
 (Andy の財布は盗まれた)

(3a)が能動文、(3b-d)が受動文となる。主語は(2)の *Andy se voet* 「Andy の足」のように *se* を用いて *Andy se beursie* 「Andy の財布」と表現する。(2)と同様で、身体部位・持ち物問わずアフリカーンス語は受動文で表現することが可能である。(3d)のような *daar* 受動文はこの場合非文となる。

(4)昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。(自動詞からの間接受身)

- a. *Gister-aand het die baba heel aand ge-huil en toe kon ek niks slaap nie.*
 yesterday-night have.AUX the baby all night PTCP-cry and then could I nothing.NEG sleep.INF not.NEG
 (昨日の夜、赤ん坊は一日中泣き、そしてそれから私は全く眠ることができなかった)
- b. *Ek is wakker ge-hou deur die baba se ge-huil.*
 I be.AUX awake PTCP-hold by.PREP the baby POSS PTCP-cry
 (私は赤ん坊の泣き声によって起こされていた)

「泣く」の意味である *huil* を用いた迷惑受け身はアフリカーンス語ではできず、(4a)のように能動文となり、*het gehuil* 「泣いた」となる。もし受動文で表すのであれば、(4b)のようになる。*Ek is wakker gehou* で、「起きている状態を保たされた (*is gehou*)」となり、動作主は赤ん坊の泣き声 (*deur die baba se gehuil*) が現れる。

(5)新しいビルが (A によって) 建てられた。(モノ主語受身、一回的)

- a. *Die nuwe huis is deur bouers ge-bou.*
 the new house be.AUX by.PREP builders PTCP-build
 (新しい家が大工によって建てられた)

- b. *Daar is 'n bank ge-bou.*
 there be.AUX a bank PTCP-build
 (銀行が建てられた)

一回的なモノ主語受け身の文はアフリカーンス語において、2種類の受動文で表される。基本的な受動の表現である(5a)は(2)、(3)と同様に動作主が想定できる場合に表現される。(5b)のように、動作主が不明な場合は *daar* 受動文が用いられる。

(6)カナダではフランス語が話されている。(モノ主語受身、恒常的。動作主が問題にならない場合)

- a. *Waar word Frans ge-praat? - Frans word in Kanada gepraat.*
 where become.AUX French PTCP-speak French become.AUX in Canada PTCP-speak
 (どこでフランス語が話されているのですか?-フランス語はカナダで話されていますよ)

- b. *Watter taal word in Suid-Afrika ge-praat?*
 which language become.AUX in South-Africa PTCP-speak
 - *Daar word Afrikaans in Suid-Afrika ge-praat.*
 there become.AUX Afrikaans in South-Africa PTCP-speak
 (どの言語が南アフリカで話されているのですか? -アフリカーンス語が南アフリカで話されていますよ)

動作主が問題にならない場合は、2種類の受動文の表現が見られる。この2種類の受動文は文の焦点がどこにあるかで使い分ける。(6a)の基本的な受動文の場合は疑問文で *waar* (英: *where*) が用いられるような、場所が焦点となっている場合に用いられる。(6b)の *daar* 受動文は疑問文で *watter taal* (英: *which language*) が用いられるような、言語について焦点が当たっている場合に用いられる。

(7)財布が (A に) 盗まれた。(モノ主語受身、モノ主語の背後に被影響者が想定される)

- a. *Die beursie is deur Andy ge-steel.*
 the wallet be.AUX by.PREP Andy PTCP-steal
 (財布が Andy によって盗まれた)
- b. *Die beursie is ge-steel.*
 the wallet be.AUX PTCP-steal
 (財布が盗まれた)
- c. **Daar is die beursie ge-steel.*
 there be.AUX the wallet PTCP-steal
 (財布が盗まれた)
- d. *Daar is 'n beursie ge-steel.*
 there be.AUX a wallet PTCP-steal
 (財布が盗まれた)
- e. *Daar is iets ge-steel.*
 there be.AUX something PTCP-steal
 (何か盗まれた)

(7a)のように盗んだと想定できる相手がいる場合は、基本的な受動文が用いられる。また、(7b)のよう

に、動作主が省略される形も問題なく使われる。(7c-e)は動作主が不明な場合に用いられる *daar* 受動文である。この場合、(7c)のように目的語に定冠詞がついた具体物 *die beursie* (英: the wallet) が現れると非文となる。その一方で、(7d)のように不定冠詞付きの名詞 *'n beursie* (英: a wallet) や(7e) *iets* (英: something) が来るのであれば *daar* 受動文は自然な表現となる。

(8)壁に絵が掛けられている。(モノ主語受身、結果状態の叙述)

- a. **Die skildery word ge-hang aan die muur.*
 the picture become.AUX PTCP-hang on.PREP the wall
 (壁に絵が掛けられている)
- b. *Die skildery hang aan die muur.*
 the picture hangs on.PREP the wall
 (壁に絵が掛かっている)

モノ主語受け身、結果状態の叙述の場合は、アフリカーンス語では受動文を用いることができないため、(8a)のような受動文で表すことはできず、(8b)のような能動文となる。

(9)A は B に/から愛されている。(感情述語の受身、特に動作主のマーカ―に注目)

- a. *Andy word deur Bob ge-haat.*
 Andy become.AUX by.PREP Bob PTCP-hate
 (Andy は Bob に憎まれている)
- b. *Bob love Andy.*
 Bob loves Andy
 (Bob は Andy を愛している)
- c. **Andy word deur Bob ge-love.*
 Andy become.AUX by.PREP Bob PTCP-love
 (Andy は Bob に愛されている)

(9a)のように、感情述語の受け身はアフリカーンス語の基本的な受動文で可能である²。また、アフリカーンス語では英語の借用語が多く見られるため、(9b)のような能動文の例もみられる。(9b)はアフリカーンス語で許容される一方で、(9c)の受動文の形では絶対に言わないとの回答を得られた。母語話者の認識としては、(9b)のような借用語を使ったものは極めてラフな言い方であり、受動文にする場合は少なくとも書き言葉的な認識であるため、受動文(9c)との相性が悪いとのことであった。

(10)A は B に/から「...」と言われた。(伝達動詞の受身、特に動作主のマーカ―に注目)

- a. *Bob het vir Andy ge-sê dat Afrikaans moeilik is.*
 Bob have.AUX to Andy PTCP-say that Afrikaans difficult is.
 (Bob は Andy にアフリカーンス語は難しいと言った)
- b. **Andy is deur Bob ge-sê dat Afrikaans moeilik is.*
 Andy be.AUX by.PREP Bob PTCP-say that Afrikaans difficult is.

² 「愛する」という動詞はアフリカーンス語は2語 (*hou van*) で表すため、今回は1語で表すことができる *haat* 「憎む」を用いて調査を行った。

(Andy は Bob にアフリカーンス語は難しいと言われた)

- c. *Daar is vir Andy ge-sê dat Afrikaans moeilik is.*
there be.AUX to Andy PTCP-say that Afrikaans difficult is.
(Andy はアフリカーンス語は難しいと言われた)

(10a)が能動文で、それを受動文としたものが(10b-c)である。アフリカーンス語では(10b)のような基本的な受動文の場合非文となる。その一方で、(10c)のような *daar* 受動文では表現が可能となる。ただし、(10c)では動作主を表す *deur* を用いると非文となる。

(11)AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています。

- a. *Bob het vir Andy in<ge>roep, so hy is nou in Bob se kantoor.*
Bob have.AUX to Andy call in<PTCP> so he is now in Bob POSS room
(Bob は Andy を呼び、そして彼(Andy)は今 Bob の部屋にいます)
- b. *Andy is deur Bob in<ge>roep, en is nou in Bob se kantoor.*
Andy is.AUX by.PREP Bob call in<PTCP> and is now in Bob POSS room
(Andy は Bob に呼ばれ、そして今は Bob の部屋にいます)
- c. **Daar is vir Andy in<ge>roep, en is nou in Bob se kantoor.*
there is.AUX to Andy call in<PTCP> and is now in Bob POSS room
(Andy が呼ばれ、そして今は Bob の部屋にいます)

(11a)が能動文で、(11b-c)がその受動文となる。「～に呼ばれた」を受動で表す場合、(11b)のように基本的な受動文で表現することが可能である。(10c)で用いられた「～と言われた」の場合では、基本的な受動文は許容されず、*daar* 受動文のみでしか表すことができなかった。しかし、「～に呼ばれた」の場合は、基本的な受動文が許容される一方で、(11c)のような *daar* 受動文は非文であるとの回答を得た。

略号一覧

<>	接中辞	AUX	助動詞	INF	不定詞
POSS	所有	PREP	所有	PTCP	分詞

参考文献

風間伸次郎 (2020) 『英語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文』 『語学研究論集(Journal of the Institute of Language Research)』 25. 139-171.

執筆者連絡先 : aki.sando@gmail.com

原稿受理 : 2022年12月10日